

(様式 13)

氏名(本籍) 夏堀 壮一郎 (青森県)
学位の種類 博士(歯学)
学位記番号 甲 第373号
学位授与日 2020年3月14日
学位授与の要件 博士の学位論文提出者(学位規程第11条第1項該当者)
学位論文題目 歯槽堤保存術における創閉鎖の有無が治癒に与える影響

論文審査委員 (主査)教授 申 基喆
(副査)教授 天野 修
(副査)教授 友村 明人
(副査)教授 横瀬 敏志

論文内容の要旨

近年、歯槽堤保存術(Alveolar Ridge Preservation; ARP)において、抜歯窩を粘膜骨膜弁によって閉鎖せずに創面を開放する新規の術式の有効性が報告がされているが、感染の危険性や歯槽堤保存の効果などについての基礎的な検討が不足している。本研究の目的は、ラットの歯槽堤に形成した実験的骨欠損に対し、ARPを行うことで、創閉鎖の有無による創傷治癒の経過や周囲組織への影響を評価することである。実験群はARPを行わなかったARP(-)群、ARP施した後に創閉鎖を行わなかったOpen ARP(+)群、およびARP後に創閉鎖を行ったClose ARP(+)群の3群に設定し、各群を術後0日、7日、および14日に創傷面積、頬側骨壁の高径、骨欠損内の骨形態計測、および組織学的に遮蔽膜と骨補填材周囲の新生骨の観察を行った。

結果として、Open ARP(+)群は、経時的にARP(-)群と同様に創部の面積が縮小し、観察期間内に創面の閉鎖が観察され、Close ARP(+)群と同様に頬側骨壁の高径の保存が観察され、骨補填材周囲の新生骨の発現がみられた。

ARP施術時における創閉鎖の有無は、創傷治癒や歯槽堤保存に影響を与えず、歯槽堤保存術として有効な方法となることが示唆された。

論文審査および試験結果の要旨

本論文では、歯槽堤保存術における創閉鎖の有無は、歯槽骨や口腔粘膜の治癒に影響を与えない可能性が高いという結論に至った。また、本研究で用いられた実験モデルは、歯槽堤保存術をラットの口腔内で実現させることを可能にし、歯槽堤保存術の有効性を示した。

本大学院 歯学研究科 高度口腔臨床科学コース専攻、夏堀壮一郎に対する最終試験は2019年12月25日申 基喆教授、天野 修教授、友村明人教授、横瀬敏志教授により、主論文の内容に関する種々の事項について口頭試問を実施し、合格と判定した。

また夏堀壮一郎の語学試験は大学院入学時の語学筆記試験の結果をもって合格とした。

よって申請者、夏堀壮一郎は博士(歯学)の学位を授与されるに値するものと判定した。